



▲午前10時、和納第二保育園の4～5歳児が中心になって草取りの応援を……

(ふれあい交流パート②)

▶8人のおばあちゃんたちの指導を受けながら作業開始。「天気もよく、子供たちとも交流できて本当に楽しかったね」とおばあちゃんたち

(ふれあい交流パート②)



ふれあい交流

パート 2

ふれあい交流パート②は、和納第二保育園児と地区老人クラブの婦人部のみなさんが共同で作っている「ふれあい農園」をご紹介します。空いている土地を利用して、子供たちとのふれあいを——と枝豆作りが始まったのは六月中旬。そのとき植えられた枝豆もいまでは高さ五十センチほどに成長、豆の成長に併せて雑草も多くなつたため、先月二十日、ここを管理しているおばあちゃんたちと園児とで草取りを通して交流をしました。午前10時、保育園から歩いて五分ほどの三田地区にある「ふれあい農園」にやってきた園児たちは、四、五歳児を中心に八人のおばあちゃんたちから指導を受けながら草取り開始。「家でもおばあちゃんや庭の草取りをしたことある」という経験派がいる一方、「やったことない」の初心者も……。みんな、はだしになって「エイッ、ヤー」と半分遊びながらも約一時間、真剣に草取りをしました。このふれあい農園は約二百五十平方メートル(約二畝)の大きさ。植えられた豆は、おくと、の豆のため、収穫は九月に入ってから。でも園児たちは「早く大きくならないかなあ」と今から収穫が待ち遠しそう。収穫時には、おばあちゃんたちを招いて試食会も予定。土を通した温かいふれあいきっと大収穫だよ……。



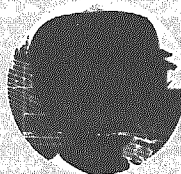
知識と経験を生かして



石塚ツル子さん (和納1区・79歳)

ふれあい交流——いいですね。子供たちにとっても、わたしたち年寄りにとっても有意義なことだと思います。いま、間瀬保育園で詩吟教室を開いていますが、園児たちは覚えが早くて感心しています。また、今回の間小との交流——児童たちの手紙がジーンと心にしましたね。これからも機会をつくっていただき、わたしたち年寄りのもっている豊富な知識と経験が子供たちの生活や活動のなかに生かされれば、素晴らしいことですね。

たくさんとれるといいな



犬飼 崇くん (6歳)



加藤千香子さん (5歳)

「とっても暑かったけど楽しかったよ。はだしで畑に入ったけど土は冷たくて気持ち良かった。早く豆が大きくなると、いいな」(犬飼崇くん・6歳) 「暑くて汗がいっぱい出たけど、みんなでやって楽しかった。ましがって枝豆まで取ろうとした友達もいておもしろかったよ。豆がたくさんとれるといいな」(加藤千香子さん・5歳)

とにかく楽しいですね



玉木ヨキさん (和納12区・65歳)

「名前なんての」なんて話をしながらやれて、とっても楽しかったですね。子供とはいえ、40人～50人も応援してくれたので、大変助かりました。おかげで、畑もすっきりきれいになり喜んでいきます。草取りという作業が子供たちとやると、こんなにもおもしろく、楽しいものだとは思っていませんでした。子供たちって本当に不思議な力がありますね。豆がなると収穫するとき、こんなに楽しいでしょうか。今から期待しています……。

ふれあい交流

パート 3

クイズや劇で歓迎—御礼はお手玉の実演で

ふれあい交流パート③は、またまた間瀬の話題になります。表紙のみである記で紹介した間瀬地区公民館の寿大学のお年寄り、間瀬小学校の児童との「祖母・孫ふれあいの会」です。同じ地区にいながら、顔は見えないけど、どこの子かわからない——という、身近な疑問から子供たちと交流し、楽しいひとときを過ごしたいと開かれたもので、異世代交流事業の一環として、今回初めて取り

組みました。

「グラウンドの松は何本あるか」などの「手作りクイズ」やジャンケンゲーム、七夕劇などお年寄りと一緒に楽しみました。これに対し、お年寄りたちはお手玉の実演や昔の話などで返礼。お昼には、グループごとに会食。昔の間瀬の様子を話し合ったりしたあと、児童一人ひとりからお年寄りへ感謝の手紙が手渡され、楽しい一日を過ごしました。

おじいちゃんへのお手紙



児童からお年寄り一人ひとりに贈られた手紙